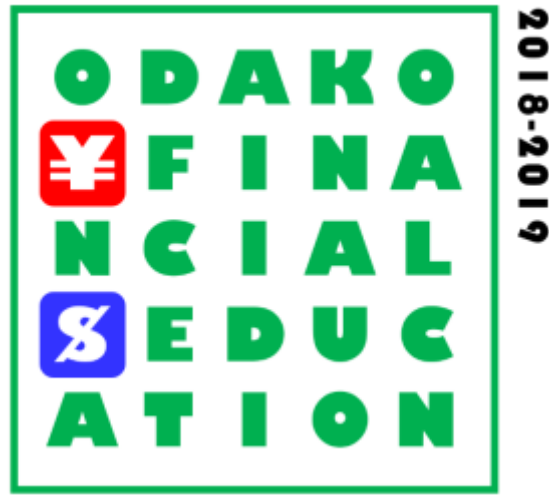


Ehime Pref. Oda High School



地域社会を担うグローバル人材の育成を目指した金融教育
－ 産官学民との連携を生かした取組を通して －

I はじめに



小田高校のある喜多郡内子町は、愛媛県のほぼ中央部に位置し、松山市から南南西約40kmの地点にあたり、町の中央部を一級河川・肱川の支流である小田川が流れている。平成17年に(旧)喜多郡内子町、喜多郡五十崎町、上浮穴郡小田町が合併し、新しい喜多郡内子町となった。

内子町は、目指す町の将来の姿に「町並み、村並み、山並みが美しい持続的に発展するまち」と掲げており、内子町の顔となる白壁の町並み、五十崎泉谷にのこる貴重な村並み、そして小田深山の美しい山並みなど貴重な場所が数多く残されている。



本校は、全日制・普通科、全校生徒数77名(令和元年5月1日現在)の小規模校で、豊かな自然に囲まれた地域に根ざした学校です。礼節を重んじる伝統は、きびきびとした集団行動や集会での厳粛な態度、端正な服装や気持ちのいい挨拶に受け継がれている。小田高生は、規律正しい行動を身に付けながら、それぞれが目標を持ち、勉学と部活動、学校行事に全力で取り組み、充実した高校生活を送っている。

II 研究主題

地域社会を担うグローバル人材の育成を目指した金融教育
— 産官学民との連携を生かした取組を通して —

III 主題設定の理由

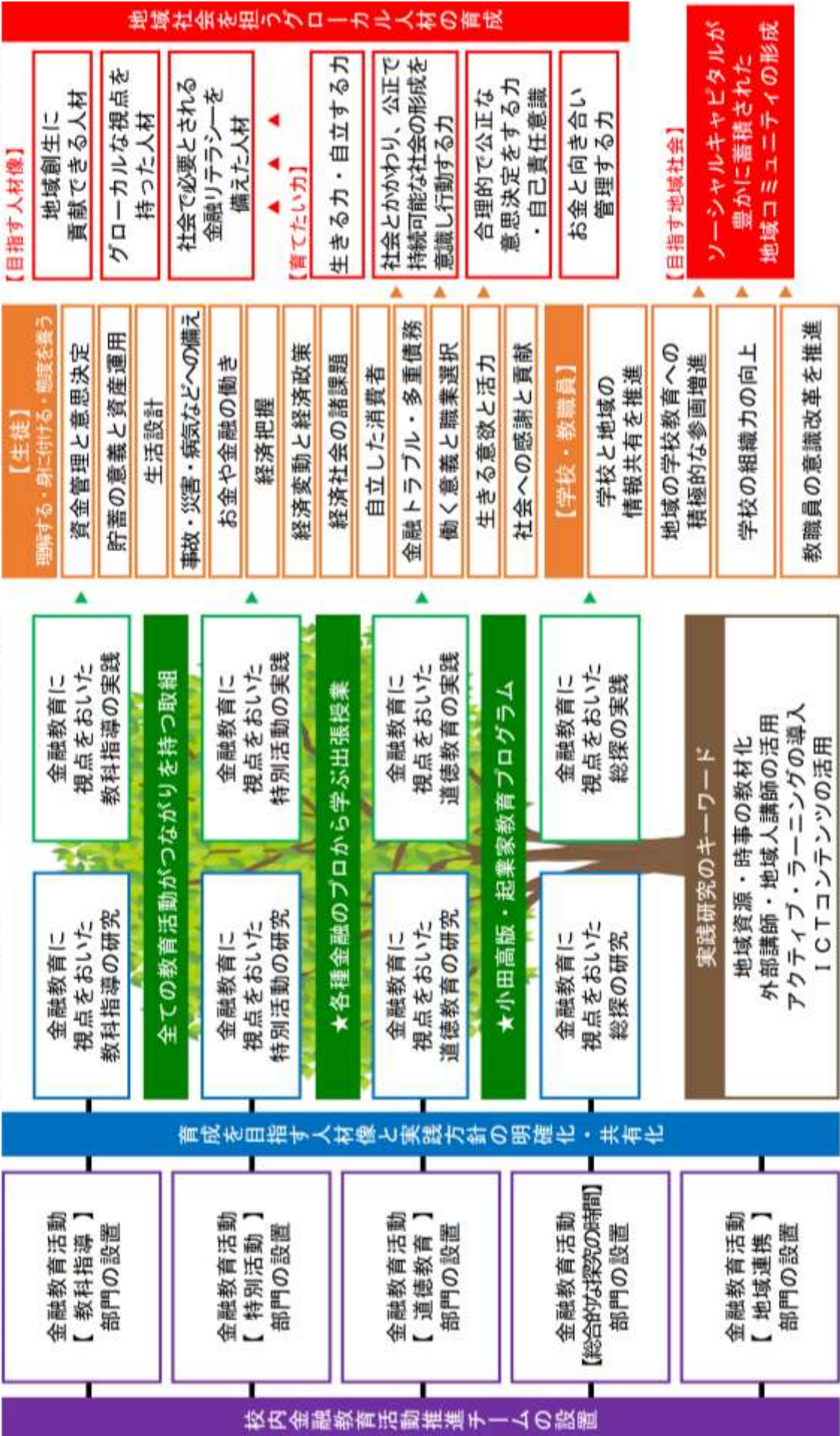
昨今の社会情勢において地方創生が望まれる中、企画力・実践力を備えた、地域を担う人材の育成が求められている。本校においては、平成30年度・令和元年度の重点努力目標に「人間力を豊かに育む教育の充実—地域社会を担うグローバル人材の育成を目指して—」を掲げ、内子町小田地区のみならず、各地域を担う人材の育成に取り組んでいる。そこで、本校が総合的な探究の時間を中心に展開する「小田高版・起業家教育プログラム」の企画・実践経験や、そこで得た人的ネットワークを生かし、本校の様々な教育活動の中で、産官学民との連携を生かした金融教育を実践することで、「地域創生に貢献できる人材」・「グローバルな視点を持った人材」・「社会で必要とされる金融リテラシーを備えた人材」、すなわち、「地域社会を担うグローバル人材の育成」につながるのではないかと考え、本主題を設定した。



LOGIC MODEL



主に本事業に関連する予算・人員の配置
主に本事業の
研究開発・活動の内容
学びの機会や場など
左記で作りに出されるもの
左記の結果、どのような変化が生まれるか
本事業で目指す生徒の資質・能力、地域の状態等



IV 実践研究の概要

(1) 実践研究を通じて育成を目指す人材像

地域社会を担うグローバル人材

ア 地域創生に貢献できる人材

地域創生に必要とされる、新しいものを生み出すクリエイティブな人材や、様々なアイデアやプロジェクトを指揮するプロジェクトマネジメント能力がある人材の育成を目指す。

イ グローカルな視点を持った人材

国際社会で通用する能力やグローバルな視点、経験をもって、地域社会・地域経済（ローカル）の活性化及び持続的発展に貢献する人材の育成を目指す。

ウ 社会で必要とされる金融リテラシーを備えた人材

社会の中で経済的に自立していくために必要な、お金やお金の流れに関する知識・判断力を備えた人材の育成を目指す。

(2) (1)を踏まえた、育てたい力

ア 生きる力・自立する力

自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等を養うとともに、お金を通して生計を管理する基礎を身に付け、より豊かな生き方に向け主体的に工夫、努力する態度を養う。

イ 社会と関わり、公正で持続可能な社会の形成を意識し行動する力

金融や経済の働き・仕組みなどの理解を通じ、自分が社会に支えられ、また働きかける関係にあることを自覚し、社会に感謝するとともに、社会が抱える様々な課題に関心を持ち、公正で持続可能な社会の形成を意識して考え、行動する態度を養う。

ウ 合理的で公正な意思決定をする力・自己責任意識

「主体的な意思決定」を、合理的かつ公正に行うための基本を理解し、実践する態度を身に付ける。また、「意思決定の結果は自らが責任を負うものである」ことを自覚し、意思決定に当たっては、必要な情報を収集し、リスクをしっかりと把握し適切に判断、行動する態度を養う。

エ お金と向き合い管理する力

「お金」が、よりよい暮らしや社会を実現していく上で必要不可欠な存在であることを理解し、日々の身近な暮らしの中で、お金の問題に向き合い、的確に管理していく態度を養う。



【金融教育の4つの分野と重要概念】

(3) 実践研究の具体的な取組

ア 金融教育活動を推進するプロジェクト組織の編成

効果的な金融教育活動を行うことができるように、校内組織として金融教育活動推進チームを設置するとともに、【教科指導】・【特別活動】・【道徳教育】・【総合的な探究の時間】・【地域連携】の各部門を設置し、活動体制を整えた。



イ 育成を目指す人材像と実践方針の明確化・共有化

前述「(1) 実践研究を通じて育成を目指す人材像」、「(2) (1)を踏まえた、育てたい力」での内容を、校内で共有化した。【地域連携】部門においては、この内容を地域や外部講師等とも共有化することに努め、授業・講座等の企画・立案等に生かした。

また、授業・講座等の企画・立案には、「学校における金融教育の年齢層別目標（高校生）」（8～11 ページ・資料1）や「学校における金融教育の年齢層別目標 関連確認シート」（12 ページ・資料2）を作成・活用し、各授業・講座等における金融教育に関するねらいや目標の明確化を図った。これにより、各教科等で何をどれくらい教えるのかを明確にし、それを総合的な探究の時間等につなげる手掛かりとした。

(学校における金融教育の年齢層別目標 関連確認シート)

教科等	学 年	単 元
ア	ア	①
		②
		③
		④
		⑤
		⑥
		⑦
		⑧
		⑨
		⑩
		⑪
		⑫
		⑬
		⑭
		⑮
		⑯
		⑰
		⑱
		⑲
		⑳
		㉑
		㉒
		㉓
		㉔
		㉕
		㉖
		㉗
		㉘
		㉙
		㉚
		㉛
		㉜
		㉝
		㉞
		㉟
		㊱
		㊲
		㊳
		㊴
		㊵
		㊶
		㊷
		㊸
		㊹
		㊺
		㊻
		㊼
		㊽
		㊾
		㊿

1 生活設計・家計管理に関する分野

ア 資金管理と意思決定 イ 貯蓄の意義と資産運用
ウ 生活設計 エ 事故・災害・病気などへの備え

2 金融や経済の仕組みに関する分野

ア お金や金融の働き イ 経済把握
ウ 経済変動と経済政策 エ 経済社会の課題

3 消費生活・金融トラブル防止に関する分野

ア 自立した消費者 イ 金融トラブル・多重債務

4 キャリア教育に関する分野

ア 働く意義と職業選択 イ 生きる意欲と活力
ウ 社会への感謝と貢献

[MEMO]

ウ 金融教育に視点をおいた教科指導・総合的な探究の時間の研究・実践（概要）

教科指導・総合的な探究の時間の実践には、以下の4つを実践研究のキーワードとして挙げ、講座の企画・立案に当たった。

(7) 地域資源・時事の教材化

金融教育的内容を取り上げる場合は、生徒たちが知識や課題を身近なものとして感じられるよう、生徒にとって関心の高い題材を選んで教材化する工夫が必要である。また、地域の自然や歴史文化等の地域資源に目を向け、地域活性化に携わる者

の一人であるとの自覚を持たせることにより、将来、地域創生に貢献できる人材の育成につながる。

(イ) 外部講師・地域人講師の活用

家庭や地域の協力に加え、関係機関や団体が提供する教材や講師派遣等の制度を活用することによって、専門知識の不足を補ったり、教材作成の負担を軽減しながら、効果的な授業を組み立てることが可能である。また、ロールモデルとなる地域の方や社会で働く方とのよい出会いを通して、生き方を学び、自分の生き方を考えるきっかけとする。



(ウ) アクティブ・ラーニングの導入

他者と協働しながら主体的に学ぶアクティブ・ラーニングを通じて、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等の育成など、新しい時代に必要となる資質・能力を育む。

(エ) ICTコンテンツの活用

授業内容に応じて、タブレット端末に加え、個人のスマートフォン等を適切に活用させ、ICT教育の活用に努めています。金融リテラシーに加え、情報リテラシーの向上を目指します。

★実践概要

【第1学年】

- 国語：評論「働くことの意味」(内田樹)を読み、仕事や労働について広く関心を持ち、「働くこと」への主体的な意識を芽生えさせる。
- 理科：環境問題や地震・津波・火山等の自然災害について学び、防止策や防災に対する意識を高めさせる。
- 保健体育：生命保険文化センターより講師を招き、社会保障制度や生命保険に関する正しい知識についての理解を深めさせる。(11月6日実施)
- 外国語：ALTの経験から英語圏の人々のお金に対する考え方を学ばせる。
- 家庭：愛媛県消費生活センターより講師を招き、「社会への扉」を活用して、契約に関する基本的な考え方と契約に関する責任について理解させるとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解させる。

【第2学年】

- 地歴公民：地域通貨から地元の経済活動を見つめ直し、グローバルな視点からフェアトレードについて考えさせる。

- 数 学：数列の規則性について学び、複利計算やローンの金利などについて考えさせ、家計管理の意識を高めさせる。
- 保健体育：生命保険文化センターより講師を招き、社会保障制度や生命保険に関する正しい知識についての理解を深めさせる。(11月6日実施)
- 家 庭：SMBCコンシューマーファイナンス(株)より講師を招き、「生活設計・家計管理」をテーマに講義をしていただき、お金に関する正しい知識を習得させるとともに、適切な判断力を身に付けさせる。
- 商 業：(株)伊予銀行より講師を招き、「銀行の業務・役割、ビジネスマナー」をテーマに講義をしていただき、金融の正しい基礎知識を習得させるとともに、健全な金銭感覚を身に付けさせる。

【第3学年】

- 地歴公民：銀行講座や仮想通貨の研究を通して、金融のしくみや、通貨の持つ意味について考えさせる。
- 理 科：高分子化合物について扱い、繊維や樹脂など現代社会に広く流通している物質を取り上げることで、市場に対しての興味を持たせる。
- 外 国 語：生活の中にある様々な英文広告や金融に関するニュースから、経済や金融について考えさせる。
- 家 庭：調理実習の中で、1食分に必要な材料費を計算し、1日分の材料費、1か月分の材料費と考えていき、生活の中の食費について考えさせる。
- 商 業：SMBCコンシューマーファイナンス(株)より講師を招き、「契約」をテーマに講義をしていただき、お金に関する正しい知識を習得させるとともに、適切な判断力を身に付けさせる。
 四国税理士会より講師を招き、「税理士の視点から見る企業経営」をテーマに講義をしていただき、税金に関する基礎的・基本的な知識を身に付けるとともに、企業経営について学びを深めさせる。
 SMBC日興証券(株)より講師を招き、「始めよう資産運用」をテーマに講義をしていただき、投資についての理解を深めさせる。

★小田高版・起業家教育プログラム（総合的な探究の時間）

全体テーマに「ふるさと小田ー未来への創生ー」を掲げ、総合的な探究の時間を中心に実践を行っている。全プログラムにおいて、各学年テーマに基づいた外部講師を招致し、「起業家精神」や「起業家的資質・能力」の育成に加え、他者と協働しながら積極的に学ぶアクティブ・ラーニングを通じて、「学びに向かう力・人間性」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」等の、新しい時代に必要となる資質・能力の向上を目指している。



【プログラムテーマ】ふるさと小田ー未来への創生ー

【第1学年】

内子町小田の産業・文化の研究



自分たちを育ててくれる地域に目を向け、その魅力を発見させることにより、郷土に対する愛着や誇りを醸成する。

【第2学年】

地域産業の活性化ー林業の6次産業化ー




森林資源と地域に生きる人々との係わりを様々な観点から考えさせ、郷土愛を醸成するとともに、地域の未来を考えさせる。



【第3学年】


未来をデザインーわれらふるさと起業家ー





地域デザインのプランニングに取り組み、自然や産業等の地域資源を見直し、地域活性化に携わる者の自覚を持たせる。


(5月10日) 【春の小田深山散策】
 内容：春の小田深山を訪れ、森林資源と観光を考える講座
 講師：内子町役場


(6月5日)  **オダカン** 【課題解決にビジネスアイデア発想法を取り入れよう!】
 内容：アイデア発想法の講座。与えられたテーマに対する、グループディスカッション&プレゼンのコンテスト
 講師：日本政策金融公庫、内子町地域おこし協力隊 


(6月25日)  【日本・愛媛・内子の魅力】
 内容：地域に住む外国人等と地域の魅力について考える講座
 講師：内子町国際交流協会 等


(8月27日)  【内子バイオマス発電所の見学】
 内容：内子バイオマス発電所を訪れ、取組について学ぶ講座
 講師：内藤組業、内子町森林組合


(6月18日)  【ジブンゴト化】
 内容：まちづくりを「ジブンゴト」として考えるための講座
 講師：内子町役場


(9月3日)  【伝統芸能の継承+地域研究】
 内容：獅子舞等の稽古を通し、ふるさとの文化に触れる講座
 講師：町村獅子舞保存会


(月 日)  【林業の現場から学ぶ】
 内容：林業の現場を訪れ、林業の現状や課題について学ぶ講座
 講師：藤岡林業


(6月25日)  【地域デザインを考える】
 内容：自治センター職員と地域デザインについて考える講座
 講師：内子町内の自治センター


(9月17日)  【伝統芸能の継承+地域研究】
 内容：獅子舞等の稽古を通し、ふるさとの文化に触れる講座
 講師：町村獅子舞保存会


(12月10日)  【森林資源をどう活かすべきか】
 内容：内子町の森林資源の活用について考える講座
 講師：内子町役場、内子町森林組合等


(7月16日)  【地域デザインのプランニングⅠ】
 内容：SDGsの観点から地域デザインについて考える講座
 講師：生物多様性の10年市民ネットワーク


(9月24日)  【伝統芸能の継承+地域研究】
 内容：獅子舞等の稽古を通し、ふるさとの文化に触れる講座
 講師：町村獅子舞保存会


(9月17日)  【地域デザインのプランニングⅡ】
 内容：ビジネスプラン作成のノウハウを学ぶ講座
 講師：日本政策金融公庫


(11月5日)  【地元の企業訪問を通して】
 内容：地元企業を訪れ、運営方法等、独自の取組について学ぶ
 講師：丸三産業・内子Liaisonからり

(10月1日)  【Plus One I】
 内容：プランのプレゼンを通し、ブラッシュアップを図る講座
 講師：内子町役場等

(1月29日)  【内子町と世界をつなぐ】
 内容：世界を意識した内子町の魅力発信について考える講座
 講師：B-Bridge(シリコンバレー)

(10月16日)  【地域デザインのプランニングⅢ】
 内容：プランの更なるブラッシュアップを図る講座
 講師：大洲青年会館新

(3月3日)  【これからの小田高での学びを考える】
 内容：本校の取組について発表を行い、講師の方々に講評していただく。また、講師の方々との意見交換を通して、これからの学びを考える講座
 講師：

(10月27日)  【Plus One II】
 内容：地域デザインについて、校内で開催するコンテスト
 講師：

(学校における金融教育の年齢層別目標)

1 生活設計・家計管理に関する分野

分野目標		年齢層別目標・高校生
ア 資金管理 と意思決定	使える資金には限りがある(予算制約)ことを理解する	①資源の有限性、希少性を理解し、財やサービスの購入に当たって、よりよい選択ができる ②現在の自分の生活や教育などのために支払われている費用を知り、家計全体を意識して自分にかかわる支出を考える態度を身に付ける
	限られた予算の下でよりよい生活を築く意義を理解し、実践する技能と態度を身に付ける	③長期的・計画的な資金管理の大切さを理解する ④学校行事等を通して実践的な収支管理ができる
	資金管理に関する意思決定の基本を理解し、実践する態度を身に付ける	⑤現代の消費生活の課題を認識し、消費者として適切な意思決定ができる ⑥希少性、選択、トレード・オフ、機会費用、効率、公正などの概念を用いて、よりよい意思決定ができる
イ 貯蓄の意義 と資産運用	貯蓄の意義を理解し、貯蓄の習慣を身に付ける	⑦期間と金利(複利)の関係を理解し、長期的に貯蓄・運用に取り組む態度を身に付ける ⑧少額であっても定期的に貯蓄・運用し続けることが将来の備えとして有益であることを理解する
	期間と金利の関係、および貯蓄・運用を継続することの大切さを理解する	
	金融商品のリスクとリターンを理解し、自己責任の下で運用する態度を身に付ける	⑨預金、株式、債券、保険等の基本的な金融商品の特徴を理解し、関連する世の中の動きに関心をもつ ⑩資金運用については、自己責任のもとで金融商品を選択する必要があることを理解する ⑪金融商品について、利益が出たり損失が出たりする特徴を踏まえて、リスクとリターンの関係について理解する ⑫様々な金融商品に資金を分散するなどのリスク管理の方法について理解する ⑬金融商品については、目先の価格の動きに目を奪われず、長期的な視点から運用を考える必要があることを理解する ⑭どの程度のリスクをとることができるかは人によって異なることを理解する ⑮投資と投機、賭け事の違いについて理解する
ウ 生活設計	生活設計の必要性を理解し、将来を展望した自分の生活設計を立てることができる	⑯生涯収入や主な支出の内容について理解し、生活設計を立てる
	生活設計に必要な様々な知識を身に付け、それを活用して自分の暮らしを考える	⑰住宅ローンや貸与型の奨学金などのローンの仕組みを理解し、返済方法や金利、延滞時の影響について考える ⑱住宅等の実物資産は、利用などにより減価し、売却しにくいことを理解する ⑲年金や社会保障制度などを理解し、自分たちの暮らしの中での役割を考える ⑳景気や経済政策と暮らしとの関係を理解する
	生活設計と職業選択を関係付けて自分の将来を現実的に考える	㉑職業選択と生活設計を関連付けて将来の自分の姿について考える
エ 事故・災害・ 病気などへの 備え	日常生活における危険から身の安全を確保する方法を理解し、実践する	㉒日常生活において様々なリスクが存在することを理解し、リスクを予測し制御して行動する
	他人に損害を与える可能性を認識し、安全な行動を心掛ける	㉓二輪車や自動車の運転に伴い加害事故を起こした場合などには、責任や補償問題が生じることを理解する
	事故や災害、病気など不測の事態に備える必要性とその方法を理解する	㉔病気や事故などのリスクが現実となった場合の家計の負担の大きさを認識し、リスク管理の方法を理解する ㉕不測の事態に備える方法としての保険と貯蓄の機能の違いを理解する ㉖社会保険と民間保険との補完関係を理解する

(学校における金融教育の年齢層別目標)

2 金融や経済の仕組みに関する分野

分野目標		年齢層別目標・高校生
ア お金の働きの理解	お金の働きや役割を理解する	①貨幣の機能を理解する ②電子マネー、地域通貨等について理解する
	金融機関の役割、中央銀行の機能について理解する	③決済機能の多様化について理解する ④金融の仕組みと働きについて、間接金融や直接金融の意義を含めて理解する ⑤中央銀行の機能について理解を深める
	金利の働きについて理解する	⑥金利の機能と変動の理由について理解する
イ 経済把握	ものやお金の流れと家計、企業、政府等の役割について理解する	⑦家計、企業、金融機関、政府、海外のもの、お金、人の全体的な流れについて理解する ⑧企業の成立、存在意義、社会的機能について理解する
	市場の働きや機能を知り、市場経済の意義を理解する	⑨市場経済、およびそこで行われる選択や競争の意義について理解する ⑩商品市場、金融市場、証券市場、外国為替市場などの働きと機能を理解する
	産業の発展と海外経済との関係について理解する	⑪貿易、外国為替などの知識をもとに、経済のグローバル化について理解する
ウ 経済変動と経済政策	景気の変動と物価、金利、株価等の関係を理解する	⑫景気変動の要因と個人の生活への影響について理解する ⑬インフレ、デフレの意味と暮らしへの影響について理解する
	中央銀行の金融政策について理解する	⑭中央銀行の金融政策についてその手段や狙いを理解する
	政府の役割について理解する	⑮財政政策の目的を理解する ⑯租税を中心とした公的負担の意義と必要性、国民の納税の義務について理解する ⑰政府が経済的な自由の保障、効率と公正の確保、成長と安定の追求などを目指して経済政策を行っていることを理解する
	景気変動や経済政策と自分の暮らしや社会との関係を理解する	⑱政府や中央銀行の経済政策と暮らしとの関係について理解する ⑲政府の経済政策と財政赤字の関係について理解する
エ 経済社会の諸課題	経済社会が抱える問題について幅広く関心をもち、情報収集の技能を身に付ける	⑳現代の経済社会の課題について多面的・多角的に情報を収集し、整理することができる
	経済社会の課題解決に向けて合理的・主体的に考える態度を身に付ける	㉑課題の解決に向けて、自ら合理的、主体的にかかわり考える態度を身に付ける ㉒経済社会の課題解決に向けて、政府が行うべき施策について自ら考える態度を身に付ける ㉓政府の財政赤字の問題を考える

(学校における金融教育の年齢層別目標)

3 消費生活・金融トラブル防止に関する分野

分野目標		年齢層別目標・高校生
ア 自立した消費者	消費者の権利と責任について理解し、それを生かす態度を身に付ける	①消費者契約法について理解する ②消費者保護の重要性について、情報の非対称性の観点から理解する ③個人情報の保護について理解し、個人情報の保護にかかわる問題について関心をもつ
	自立した消費者として行動するための基礎知識と態度を身に付ける	④契約の意味と留意点および契約に伴う責任について理解し、内容をよく確認して契約する態度を身に付ける ⑤契約に伴う手数料の負担について理解する ⑥環境や社会に配慮した生活が営めるようにライフスタイルを工夫する
	消費生活に関する情報を収集し適切に活用することができる技能を身に付ける	⑦情報通信技術等を活用して、情報を収集し、自分の消費生活に活用できる技能を身に付ける
イ 金融トラブル・多重債務	消費者問題の発生する背景について理解し、お金との付き合い方について日頃から考える態度を身に付ける	⑧契約や消費者信用などに関する消費者問題が生じる背景について理解し、問題の発生を回避する態度を身に付ける
	金融トラブルや多重債務の実態を知り、巻き込まれない態度を身に付ける	⑨各種カードの役割や機能と使用上の留意点を理解し、適切に行動する態度を身に付ける ⑩インターネット、携帯電話などによるトラブル事例を学び、予防の仕方を理解し、適切に行動する態度を身に付ける ⑪ローンの金利とローン返済額との関係および金利負担について具体例を通して理解し、適切に行動する態度を身に付ける ⑫多重債務問題の現状を知り、安易な借入を避ける ⑬借入に当たっては、生活設計の中で返済可能かどうか確認する必要があることを理解する
	法律や制度を知り、それらを活用して事態に対処できる知識と技能を身に付ける	⑭消費者トラブルや労働条件などに関するトラブルに対処できる具体的方法を学び、実際に行使できる技能を身に付ける ⑮多重債務の相談窓口などを調べて、相談できる

(学校における金融教育の年齢層別目標)

4 キャリア教育に関する分野

分野目標		年齢層別目標・高校生
ア 働く意義と職業選択	勤労の意義とお金の価値の重さを理解する	①勤労により収入を得ることが経済的自立の基盤であることを理解する ②働き方によって生涯所得に大きな差が生じることを理解する ③仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の意味を理解する
	自分の職業選択について主体的に考える	④進路選択を通じて具体的に職業選択について考える ⑤進学、就職などに伴う支出や収入（大学での奨学金を含む）について試算し、それを参考にして進路選択について考える ⑥自分の就きたい職業とその社会的意義について考える
	労働者の権利と義務について理解し、それを生かす態度を身に付ける	⑦労働者の権利と義務を理解し、労働条件を確認する態度を身に付ける
イ 生きる意欲と活力	付加価値を生み出すために様々な努力が必要であることを理解する	⑧会社経営において付加価値を高めることの必要性を理解する
	付加価値の創造が経済社会発展の原動力であることを理解する	⑨起業に必要な知識を身に付け、新たなビジネスについて考える
	自らの夢を描き実現の方法を考え、実現に向けて努力する態度を身に付ける	⑩将来の夢を実現するための現実的なステップや手段を考え、実践しようとする態度を身に付ける
ウ 社会への感謝と貢献	社会との様々なつながりを理解し、ルールを守り、他人に感謝する心を養う	⑪法やルールを遵守することは市場経済が十分機能する上で重要であることを理解する ⑫法やルールを遵守し、他人に損害を与えることがないように心掛ける
	よりよい社会を築くためにみんなで協力することの意味を理解し、何ができるかを考え実行する態度を養う	⑬持続可能な社会やよりよい社会を展望し、それに向けて必要なことを考え実践しようとする ⑭よりよい社会の実現に向けたお金の使い方をしようとする ⑮企業の社会的責任と社会貢献の在り方について、自分の職業選択と関連付けて考える

(学校における金融教育の年齢層別目標 関連確認シート)

教科等		学年		単元等	
-----	--	----	--	-----	--



- 1 生活設計・家計管理に関する分野
 ア 資金管理と意思決定 イ 貯蓄の意義と資産運用
 ウ 生活設計 エ 事故・災害・病気などへの備え
- 2 金融や経済の仕組みに関する分野
 ア お金や金融の働き イ 経済把握
 ウ 経済変動と経済政策 エ 経済社会の諸課題
- 3 消費生活・金融トラブル防止に関する分野
 ア 自立した消費者 イ 金融トラブル・多重債務
- 4 キャリア教育に関する分野
 ア 働く意義と職業選択 イ 生きる意欲と活力
 ウ 社会への感謝と貢献

1	ア	①
		②
		③
		④
		⑤
		⑥
	イ	⑦
		⑧
		⑨
		⑩
		⑪
		⑫
		⑬
		⑭
		⑮
	ウ	⑯
		⑰
		⑱
		⑲
		⑳
		㉑
	エ	㉒
		㉓
		㉔
		㉕
		㉖

2	ア	①
		②
		③
		④
		⑤
		⑥
	イ	⑦
		⑧
		⑨
		⑩
		⑪
		⑫
		⑬
		⑭
		⑮
	ウ	⑯
		⑰
		⑱
		⑲
		⑳
		㉑
	エ	㉒
		㉓

3	ア	①
		②
		③
		④
		⑤
		⑥
	イ	⑦
		⑧
		⑨
		⑩
		⑪
		⑫
		⑬
		⑭
		⑮

4	ア	①
		②
		③
		④
		⑤
		⑥
	イ	⑦
		⑧
		⑨
		⑩
		⑪
		⑫
		⑬
		⑭
		⑮

[MEMO]

V 第3学年の取組について

【総合的な探究の時間】

未来をデザイン—われらふるさと起業家—
 [地域デザインのプランニング（高校生ビジネスプランコンテストへの応募）]

【アイデア発想法、ディスカッション、プレゼン】

(6月5日) **【特別】** 短期集中にビジネスアイデア発想法を取り入れよう!
 内容: アイデア発想法の講座。与えられたテーマに対するグループディスカッション&プレゼンのコンテスト
 講師: 日本政策金融公庫、内子町地域おこし協力隊

★ [取組の自分事化]

(6月18日) **【ジブンゴト化】**
 内容: まちづくりを「ジブンゴト」として考えるための講座
 講師: 内子町役場

【地域の現状・取組、プランの原案作り】

(6月25日) **【地域デザインを考える】**
 内容: 自治センター職員と地域デザインについて考える講座
 講師: 内子町内の自治センター

【SDGs、理念、共通項探し】

(7月16日) **【地域デザインのプランニングⅠ】**
 内容: SDGsの観点から地域デザインについて考える講座
 講師: 生物多様性の10年市民ネットワーク

【プランニングシート、マーケティング、収支】

(9月17日) **【地域デザインのプランニングⅡ】**
 内容: ビジネスプラン作成のノウハウを学ぶ講座
 講師: 日本政策金融公庫

【プレゼンテーション、ステークホルダーの視点】

(10月1日) **【Plus One Ⅰ】**
 内容: プランのプレゼンを通し、ブラッシュアップを図る講座
 講師: 内子町役場等

★ [収支計画、企業経営者の視点]

(10月16日) **【地域デザインのプランニングⅢ】**
 内容: プランの更なるブラッシュアップを図る講座
 講師: 大洲青年会議所

【プレゼンテーション】

(10月27日) **【Plus One Ⅱ】**
 内容: 地域デザインについて、校内で開催するコンテスト
 講師:

★ [クラウドファンディング、起業家の視点]

(11月5日) **【クラウドファンディングを学ぶ】**
 内容: クラウドファンディングについて学び、企画等を実現する方法を理解させる講座
 講師: 株式会社CAMPFIRE

【教科指導】

【銀行、通貨、仮想通貨】

教科指導 **【地歴・公民】**
 内容: 銀行講座や仮想通貨の研究を通して、金融のしくみや、通貨の持つ意味について考える。

【市場、流通】

教科指導 **【理科】**
 内容: 高分子化合物について扱い、繊維や樹脂など現代社会に広く流通している物質を取り上げ、市場に対しての興味を持たせる。

【グローバルな視点】

教科指導 **【外国語】**
 内容: 生活の中にある様々な英文広告や金融に関するニュースから、経済や金融について考えさせる。

【食費、家計】

教科指導 **【家庭科】**
 内容: 調理実習の中で、1食分に必要な材料費を計算し、1日分の材料費、1か月分の材料費と考えていき、食費について考える。

【金融機関等講座】

★ [消費者金融、契約、ローン、クレジット]

(10月11日) **【金融経済教育セミナー（契約）】**
 内容: 「契約」をテーマに、お金に関する正しい知識と適切な判断力を身に付けさせる講座
 講師: SMBCコンシューマーファイナンス株

★ [税理士、企業経営、消費税]

(10月16日) **【四国税理士会 出張授業】**
 内容: 「税理士の視点から見る企業経営」をテーマに、起業、経営の学びを深める講座
 講師: 四国税理士会 大洲支部

★ [証券会社、投資、資産運用]

(10月21日) **【SMBC日興証券 出張授業】**
 内容: 「始めよう資産運用」をテーマに、投資についての理解を深める講座
 講師: SMBC日興証券株

◆今後の予定
 12月 租税教室（四国税理士会）
 12月 消費者支援講座（愛媛県消費生活センター）
 2月 年金啓発セミナー（日本年金機構松山事務所）

学 年：全学年 実施日：令和元年6月5日（水）

【Class title】 小田高生全校会議 Odako Conference 「オダカン」



【Collaborator】 佐藤 公昭（日本政策金融公庫） 武田 惇奨（内子町地域おこし協力隊）
水谷 円香（内子町地域おこし協力隊） 岡山 紘明（内子町地域おこし協力隊）
香川 顕夫（内子町地域おこし協力隊） 二宮 佳世（内子町役場・劇団オーガンス）



「オダカン」は与えられたテーマを基に、グループディスカッションを行い、自分たちのアイデア・プランをプレゼンし、グランプリを決定するイベントです。ディスカッションテーマは「小田高校をよりよくするプラン」でした。インプット講座を日本政策金融公庫 佐藤 様に、ディスカッション・アドバイザーを内子町地域おこし協力隊の方々に、MCを劇団オーガンス 二宮 様に担当していただきました。身近な題材を基に課題発見・解決に取り組むイベントを通して、生徒たちは多くの刺激を受けることができたようです。

インプット講座「課題解決にビジネスアイデアの発想を取り入れよう！」



日本政策金融公庫 佐藤 様が講師のインプット講座。ビジネスやアイデアの捉え方等、アイデア発想のヒントを分かりやすく伝えていただきました。

ディスカッション・アドバイザーとのコミュニケーションを発想のきっかけに



内子町地域おこし協力隊の方々は、生徒と近い距離感でアドバイスをしてくれました。第三者とのコミュニケーションがアイデア創出のきっかけとなることを体感しました。

先輩と後輩の距離をグッと近づける学年を超えたコミュニケーションの場



テーマについてはもちろん、プレゼン方法やタブレット等のツールの活用方法等、学年の枠を超えて意見を出し合いました。まさに小田高生全員の協働活動です。

【Student's impressions】

今回初めて「オダカン」に参加し、先輩方と話し合うという貴重な体験ができました。反省点は、自分の意見を積極的に出せなかったことです。今後はグループ活動において、率先して意見を述べるようにしたいです。（1年生）

今年は、自分から意見を出して積極的にディスカッションができ、プレゼン資料の作成も慣れて、うまく分担・協力できました。意見がたくさん出た分、うまくまとめて深める時間が足りなかったため、限られた時間を上手く使う工夫をしたいと思います。（2年生）

今回は最上級生としてまとめる立場で参加しましたが、グループの中で意見をまとめることの難しさを感じました。ただ3年間やってきて、例年よりもそれぞれが発言していて、今までよりいいオダカンになったと思います。（3年生）

【Class title】 SPECIAL SEMINAR【ジブンゴト化】

【Collaborator】 室岡 康平（内子町役場）



講師に内子町役場より室岡 様を招き、「ジブンゴト化」をテーマに2時間の講座を開いていただきました。講座では、マグネット・テーブル型式のディスカッションを行い、自分の興味・関心を具体的に表現し、自らの興味・関心に基づき「3日以内にできるマイチャレンジ」を宣言しました。講座を通し、自分の好きなことや興味があることなども、見方を変えたり、工夫することで、人のためになり、地域活性化に活かせることを知りました。「何かやってみよう！」という気持ちが湧いてきた講座となりました。

自分自身の興味・関心、好きなことの探究から、具体的な行動へ



地域の課題解決やまちづくりを考える前に、自分自身の興味・関心、好きなことを探求することが、よりリアルな考えや行動につながり、課題を自分事として捉えられます。

マグネット・テーブル型式のグループ作りと対話から自分を知る



「興味・関心」「好き」を基準に挙げたキーワードを用紙に記入→会場を歩き回る→チーム作り→「興味・関心」「好き」の探求活動。初めての取組でしたが、生徒たちはとても積極的でした。

「私は〇〇をする！」
3日以内にできるマイチャレンジ宣言



はじめの一步を踏み出すためのマイチャレンジを、全員で宣言しました。自分の内側から湧いてくる想いを、小さくても行動として一歩ずつ積み重ねていきます。

【Student's impressions】

今まで、何かを変えないといけなかったとき、大きく変えないといけなかったと思っていたけれど、今回の授業で自分が考えた「マイチャレンジ」のように、小さなことから少しずつ変えて、一つ一つ達成していくことが大切だと思いました。

自分の好きなことから考えていくという活動で、とても楽しく活動することができました。いつもは話さない人と好きな話題や共通の趣味で新たな発見をすることができました。私は、今回経験したようなことを発展させて地域づくりなどに生かせるといいなと考えています。

学校生活を共にする同級生ですが、今まで知らなかったことや、意外な共通点で話が盛り上がりました。マイチャレ宣言でも、自分では思いつかない発想を持つ人がいて、価値観の異なる人と交流することは大切だと思いました。

【Class title】 ODAKO STUDY KISSA

【Collaborator】 ドレーン・アルント（内子町国際交流協会） サマシ・ジャーナキン（内子町国際交流協会）
大野 千景（内子町国際交流協会） ディアント・レア・アルス（本校ALT）
大野 哲（内子自治センター） 藤岡 伸一（内子東自治センター）
稲田 彰二（大瀬自治センター） 大久保裕記（五十崎自治センター）
上山 淳一（小田自治センター）



「ODAKO STUDY KISSA」は「仲を深める・視野を広げる・新しいアイデアにつなげる」をコンセプトに、テーマ関係者を招き、全3ラウンドの世界・カフェを実践するイベントです。1年生は「日本・愛媛・内子の魅力」、3年生は「地域デザインを考える」がテーマでした。カフェのようなBGMのかかる体育館に、各自ドリンクを持ち込み、家庭科の授業で生徒が作ったお菓子をつつきながらの世界・カフェ。普段の授業とは違った雰囲気だからこそできるコミュニケーションや発想がありました。

ふるさとの魅力を再確認

グローバルな視点からもアドバイス



1年生のテーマは「日本・愛媛・内子の魅力」。ゲストに内子町国際交流協会 様や内子町在住の海外留学・海外勤務経験者の方々を招き、国際的な視点からのアドバイスをいただきました。

自治センター館長と考える

各自治区の特徴を活かすには



3年生のテーマは「地域デザインを考える」。ゲストに内子町内の自治センター 館長 様を招き、実際の地域デザインに携わる立場からのアドバイスをいただきました。

仲を深める・視野を広げる

・新しいアイデアにつなげる



仲を深め、視野を広げた2時間のプログラム。今日の取組が、きっと新しいアイデアへとつながることを信じ、最後はみんなで記念撮影を行いました。

【Student's impressions】

皆との話し合いの時間を通じて、仲を深めることができました。日本・愛媛・内子の魅力について話し合い、私が住んでいる内子の中でもたくさんの魅力があり、それに気づけていなかったただだと実感しました。今後は内子だけでなく様々な場所に目を向けていきたいと思いました。（1年生）

自治体が行っていることについて、初めて深く考えました。各自治体の館長さんとの意見交換の中でおもしろいアイデアがたくさん出ました。話し合いが充実し、この時間がとても短く感じられ、大変いい経験になりました。（3年生）

内子町にも多くの自治体がありますが、多くの問題が共通していると感じました。今回、楽しい雰囲気の中でそれらの解決に向けた話し合いができ、良い意見も出せたと思います。いつかそれらが実現できるよう今後も地域課題について考えていきたいです。（3年生）

学 年：第3学年 実施日：令和元年7月16日（火）

【Class title】 SPECIAL SEMINAR

【地域デザインのプランニング～持続可能な開発目標（SDGs）の観点から～】

【Collaborator】 納堂 由美子（国連生物多様性の10年市民ネットワーク四国地域グループ）



講師に国連生物多様性の10年市民ネットワーク四国地域グループより納堂様を招き、「地域デザインのプランニング～持続可能な開発目標（SDGs）の観点から～」をテーマに2時間の講座を開いていただきました。3年生は、小田高版・起業家教育プログラムにおいて、地域デザインのプランニングに取り組んでいます。地域課題に対する自分たちの提案が、SDGsとどのように関わっているのかを考えるうちに、様々な観点から提案を見つめ直すことができました。また、SDGsを学び、世界とつながる方法をまた一つ身に付けられたと思います。

Sustainable Development Goals
持続可能な開発目標



SDGs について教えていただきました。SDGs とは、国連総会で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」の一環で合意された、世界が2030年までに達成を目指すべき17の目標のことで

地域の方が授業に参加
高校生のディスカッションに刺激を



講師の先生以外に、地域の方3名が授業に飛び入り参加してくれました。グループワークの時間には、高校生のディスカッションの輪に入り、アドバイスも。ゲストとの意見交換が新たなアイデアを生み出したようでした。

講師の先生から個別アドバイス
世界とつながるSDGsの可能性を学ぶ



納堂様より、各グループの提案に対し、SDGsの視点からアドバイスをいただきました。SDGsというフィルターを通すことで、提案がブラッシュアップされるとともに、他とつながるきっかけが生まれることを学びました。

【Student's impression】

今回のSPECIAL SEMINARでは、自分にとって初めて知った「SDGs」という観点から地域おこしについて考えました。僕たちの班では、空き家を何かに利用できないかというテーマでディスカッションを進めました。自分だけでは考えつかなかった発想もありました。

最初は、「SDGs」の意味がよく分かりませんでしたが、納堂さんの話を聞いて理解することができました。グループワークで人口減少に焦点を置き話し合いました。サバイバルゲーム場を作る案では、小田の土地木材の活用などプラス面が多くあることが分かりました。

小田の課題が多く出てきました。解決案は出るけど、メリットよりデメリットの方が多く苦労しました。講師の先生のアドバイスをいただき、いい解決プランを考えることができたので、今後につなげていきたいと思います。

学 年：第3学年 実施日：令和元年9月17日（火）

【Class title】 **SPECIAL SEMINAR**
【地域デザインのプランニングⅡ～ビジネスプラン作成のノウハウを学んで～】

【Collaborator】 岡本 輝之（日本政策金融公庫）



講師に日本政策金融公庫より岡本 様を招き、「地域デザインのプランニングⅡ～ビジネスプラン作成のノウハウを学んで～」をテーマに2時間の講座を開いていただきました。3年生は、小田高版・起業家教育プログラムにおいて、地域デザインのプランニングに取り組んでいます。今回の講座は、自分たちの提案にビジネスプラン作成のノウハウを取り入れ、実現性を高める根拠と理念を加えることを目的に開講しました。金融リテラシーの向上につながる講座にもなり、プラン作成上の重要な観点を学ぶことができました。

**日本政策金融公庫主催
高校生ビジネスプラングランプリ**



日本政策金融公庫が主催する高校生ビジネスプラングランプリの応募用プランニングシートを利用し、ビジネスプラン作成のポイントを教えていただきました。日本政策金融公庫 様には6月に実施した「オダカン」にも来ていただきました。

**金融リテラシーの向上
収支の算出についての実習**



本校は昨年度から2年間、金融教育の研究指定校となっており、様々な場面で金融リテラシーの向上を目指しています。今回の講座では、収支計画の項目の中から特に、売上高の算出について、価格設定の妥当性や来客数（見込）から考える実習も行いました。

**地域への思いを形に
グループメンバーとの協働作業**



今回の学びを生かし、今後、ビジネスプランシートを完成させ、日本政策金融公庫が主催する「高校生ビジネスプラングランプリ」への参加を予定しています。地域に対する想いを上手く表現できるよう、この後もグループメンバーとの議論は続きます。

【Student's impression】

ビジネスプランを考えていく中で、必ず課題やデメリットが出て、それをどのように解決していくか考えるのが難しかったです。どう解決していくか、仲間と協力してアイデアを出しながら考えていくことができました。

売上高や売上原価など実際に問題を解いてみましたが、とても難しいと感じました。思っていた以上にお金がかかり、利益を出すことは簡単ではないと感じました。今後、ビジネスプランを考えていく上でとても役に立ちました。

収支計画について学びました。自分たちの案は、ほぼ完成していましたが、費用面のことを全然考えられていませんでした。今後は、予算と利益を意識し、より良いビジネスプランになるように、工夫していきたいと思います。

学 年：第3学年 実施日：令和元年10月1日（火）

【Class title】 Odako Community Design Contest Plus One
（外部審査員版）

【Collaborator】 上山 淳一（小田自治センター）



3年生が取り組む地域デザインのプランニングについて校内で開催するコンテスト「Odako Community Design Contest Plus One」を実施しました。今回の審査員は、内子町小田自治センター館長様、本校事務課長、第3学年主任に務めていただきました。6つの班それぞれの発表に工夫が見られ、プレゼンテーション能力を高める良い機会にもなりました。また、審査員の先生方より、鋭い質問や、貴重なアドバイスを数多く受け、ビジネスをする上で必要な視点や、おカネに関する感覚など、新たな気づきや学びが多くありました。

学びの振り返り

コンテストの評価基準の確認



3年生が行ってきた学びのステップを全員で振り返った後、司会者から「商品・サービスについて」や「収支計画について」、「発表・資料の分かりやすさ」など、評価基準の詳細について説明がありました。

「プレゼン」+「質疑応答」

他班のアイデアに刺激を受ける



各班が考えた地域課題を解決するビジネスプランの発表が行われました。ユニークなアイデアに加え、誰を対象に、どのくらいの利益を見込むかなど細かな内容を発表し、その後審査員から貴重なアドバイスを受けました。

審査員の方からの講評

「ゼロから生み出すことの価値」



ゲストの上山様より、「今回の取組を通して感じた、何もないところからビジネスプランを考え出す難しさは、将来の進路先で必ず生きてくる。大変良い経験だと思う」と御講評をいただきました。

【Student's impressions】

初めて自分たちのプランを発表する機会でしたが、工夫が足りなかったと反省しました。地元ならではのことや、収支計画が力不足だと感じたので、次の SPECIAL SEMINAR までに前よりも良いプレゼンができるように準備したいです。

発表後に審査していただいた方々に意見をもらいました。自分たちに何が足りないかを理解し、次の発表につなげたいと思いました。他の班のプレゼンの仕方を見て、良いものはマネしたいと思いました。

商品・サービスについてみんなで意見を出し合ってスムーズに進めるとできましたが、収支計画を考えるのがとても大変でした。今回のアドバイスを生かし、小田の魅力を伝えることができるビジネスプランに仕上げたいと思います。

学 年：第3学年 実施日：令和元年10月16日（水）

【Class title】 SPECIAL SEMINAR
【地域デザインのプランニングⅢ～事業相談会～】

【Collaboratorz】 岡田将太郎（大洲青年会議所） 高岡 明宏（大洲青年会議所）
西田 典正（大洲青年会議所） 緒方 健作（大洲青年会議所）
石田 脩平（大洲青年会議所） 上田 怪（大洲青年会議所）



大洲青年会議所 様より6名を講師に招き、本校3年生が取り組む「地域デザインのプランニング」に関して、プランの事業相談会を実施しました。生徒たちは、小田自治センター館長 様を招き実施した「Plus One」でのアドバイスを基に、プランのブラッシュアップを図ってきました。大洲青年会議所 様には事前にプランシートを見ていただき、収支計画を中心にプランに対するアドバイスをいただくとともに、生徒たちの相談や質問に回答していただきました。各班のテーブルで、終了時間ギリギリまで続く生徒たちと講師の方々との熱のあるコミュニケーションが印象的な講座でした。



**1班1人のアドバイザー
距離感の近い個別相談会**



大洲青年会議所 様のご協力のおかげで各班に一人ずつアドバイザーを迎えることができました。この距離感だからこそ聴けたこと、言えたことがありました。アドバイザーも含めたチーム感も生まれました。



**根拠ある収支計画への挑戦
売上UP & コスト削減**



プラン作成にあたり、困難を感じたことの一つが収支計画でした。生徒たちは、収支計画を作成するにあたり出てきた課題や疑問をアドバイザーの力を借りながら、一つ一つ解決していこうとしていました。



**「学び」「気付き」のシェア
他のテーブルの成果から新たな発想を**



講座の最後に、本日の「学び」や「気付き」を発表しました。講座前にはなかった数字や発想があり、プランに対し様々なアプローチを試みたことが伺えました。また、他のテーブルの成果を聞き、自分たちのプランの応用できないか考える生徒もいました。

【Student's impressions】

収支計画を考えていく中で大切なことや、自分たちの考えるビジネスのターゲットとなる顧客をどこにするのか考えるきっかけになりました。顧客のターゲットを考える発想が今までなかったので、とても良い勉強になりました。

今回のセミナーは、自分たちのプランを見直す良い時間になりました。講師の先生が細かい点まで話を掘り下げていただき、自分たちでは気付かなかった点まで修正することができました。いいビジネスプランができる気がします。

収支計画を中心にアドバイスをいただき、色々な視点からの考え方があることに気付かされました。ツアーの回数や保険、宣伝の仕方や場所など多くのアドバイスをいただけて、とても良い充実した時間になりました。

SMBCコンシューマーファイナンス(株) 金融経済教育セミナー（契約）

（10月11日）

「契約」をテーマに、授業をしていただきました。「契約」や「クーリング・オフ」、「マルチ商法」、「ローン・クレジット」などのキーワードに基づいたお話をしていただきました。数ヶ月後、数年後に訪れる社会人としての生活を、金融の視点から具体的にイメージすることができた講座でした。



消費者金融

契約

ローン・クレジット

四国税理士会 出張授業

（10月16日）

「税理士の視点から見る企業経営」をテーマに授業をしていただきました。本校3年生が取り組む「地域デザインのプランニング」の作成資料に触れながら、「『商い』とは何か?」「売りたいモノは何か?」など、ビジネスについて考えさせられる講座となりました。また、「働く」ということは「時間・命の提供」と言え、だからこそ、その対価としていただく「お金」は大切なものであるとおっしゃっていたことが印象的でした。



税理士

企業経営

税（消費税）

SMBC日興証券(株) 出張授業

（10月21日）

「始めよう資産運用」をテーマに授業をしていただきました。証券会社の視点から、お金をめぐる日本の現状やお金の役割について、また、投資やリスクについてお話をしていただきました。今までは遠い存在であった「投資」について考えるよいきっかけとなる講座でした。



証券会社

投資

資産運用

VI 成果について

(1) 全ての教育活動が「金融教育」でつながりを持つ一つの取組に

『金融教育は新しい教育分野として新たな教育領域をことさら主張するものではない。むしろ、金融教育は既存の教科等における学習内容や様々な教育領域の知識などを基本として、それを子どもたちの生き方や価値観の形成につなげていくトータルな過程そのものを指すといった方が適切であろう』

前述は、金融広報中央委員会が編集・発行している『金融教育プログラム—社会の中で生きる力を育む授業とは—』に記載されている文章の一部抜粋である。2年間の研究実践を終え、感じていることの一つがまさにこれである。本校では、「金融教育」は普段のそれぞれの教育活動を結びつけるキーワードであった。「金融教育活動を推進するプロジェクト組織の編成」や、「学校における金融教育の年齢層別目標（高校生）」（8～11 ページ・資料1）・「学校における金融教育の年齢層別目標 関連確認シート」を用いた「育成を目指す人材像と実践方針の明確化・共有化」などを経て、学校・家庭・地域・関係機関が「金融教育」を意識した取組を展開でき、右上の「資金管理と意思決定」以下13項目の分野目標を踏まえた学びを提供することができた。

【生徒】 理解する・身に付ける・態度を養う
資金管理と意思決定
貯蓄の意義と資産運用
生活設計
事故・災害・病気などへの備え
お金や金融の働き
経済把握
経済変動と経済政策
経済社会の諸課題
自立した消費者
金融トラブル・多重債務
働く意義と職業選択
生きる意欲と活力
社会への感謝と貢献

(2) 生徒の「お金」・「金融」に関する意欲・関心の高まり

金融教育に関する研究実践を重ねるにつれ、生徒の「お金」・「金融」に関する意欲・関心の高まりを感じられた。具体的には、生徒が各イベント終業後に提出する感想に、「お金」・「金融」に関するワードが増加、または、具体化していった。また、それに伴い、「お金」・「金融」に関する質問や学びへの要望が増加した。3年生が11月5日に実施したSPECIAL SEMINAR【クラウドファンディングを学ぶ】は、生徒からの質問・要望がきっかけ一つとなり実現へとつながった。

(3) 「根拠ある数字」の追求、「協働する力」の向上

本研究実践の中で、生徒が「根拠ある数字」を追求する姿が印象的であった。特に、第3学年の取組であるビジネスプランの収支計画では、売上高・売上原価・その他の経費について、講義や講師とのコミュニケーション、グループ内のディスカッションを重ねるにつれ、数字のより具体的な根拠が示されていった。それはプランのブラッシュアップにあたり、重要な意思決定の要素となっていった。また、取組を通し、「ビジネスは一人ではできない」という考えも生まれた。「自分にはわからないことがある」「一人ではできないことがある」という思いは、自然と自分以外の誰かと関わり、「聞く」「伝える」といった人との関係づくり、つまり「協働する力」の向上につながった。

(4) 学校・教職員について

今回の取組を通し、学校は地域とまた一つ情報共有を進めることができた。課題や目標を共有化することで、地域連携の動きもスムーズさが増し、地域側から講師の紹介数や、講座の提案数は増加、提案から実施までのスピードも速くなった。金融教育の研究実践を通し、「金融教育への取組」、「地域と協働した学びの構築」に対する教職員の意識もポジティブに変化し、学校の組織力の向上につながった。